



様式第4号(第7条関係)

令和5年11月17日

東かがわ市議会議長
渡邊 堅次様

東かがわ市議会議員
(会派・個人・その他)
氏名 渡邊 堅次

行政視察等報告書

1	日時	令和5年10月24日(火)～令和5年10月26日(木)	
2	参加者	渡邊 堅次	
3	研修目的等	内容	研修場所
		①海岸線の工場群を活かした観光誘客への取り組み	福岡県北九州市
		②全国市議会議長会 基調講演「躍動的でワクワクする市議会に」	福岡県北九州市 西日本総合展示場 新館
		③全国市議会議長会 意見交換会「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」	福岡県北九州市 西日本総合展示場 新館
		④既存事業の磨き上げと再整備による観光名所化の取り組み	福岡県北九州市 高塔山公園
		⑤全国市議会議長会 課題討議「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」	福岡県北九州市 西日本総合展示場 新館
⑥「門司港レトロ」を活かした観光誘客への取り組み	福岡県北九州市 門司港レトロ地区		
4	研修・調査内容	別紙のとおり	
5	研修成果	別紙のとおり (感想・今後の取り組み等)	
6	費用	56,070 円	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

行政視察報告書（令和5年10月24日～10月26日） 別紙

報告者 渡邊 堅次

4. 研修・調査内容

①海岸線の工場群を活かした観光誘客への取り組み

小倉市は、市政60周年記念事業として「第18回全国市議会議長会研究フォーラム in 北九州市」を開催している。フォーラムの開催地であることを活かし、全国の市議会議員を対象とした、市内の魅力ある地域の視察企画であり、標記はその一つである。

全国屈指の工場地帯である北九州市は、海岸線のほとんどが工場で占められている。これは風光明媚とは真逆の景観だが、近年、工場夜景が観光資源として需要を持ち始めた情勢を察知し、海上から幻想的な明かりを楽しめるクルーズ船の運航という、新たな誘客のための試みであった。

②全国市議階議長会 基調講演「躍動的でワクワクする市議会に」

大正大学教授兼地域構想研究所長の片山善博氏より、「地域議会をめぐる現状とこれまでの地域議会改革の検証」「日本の地方議会に欠けていることは何か」「現行の議会の権限を活用した積極的な取組」「議会の常識と市民の意識」「今、振返って議会に感謝していること」などについて講演をいただいた。公演の中のキーワードは、「議案や予算案の修正はあり」「議場での真剣な議論がない。議案が通るかどうかの緊張感が必要」「税の議論がない」「議会で結論が変わらなければ市民は議会に関心を持たない」「市長提案の議案をうのみにしない」などであった。

③全国市議階議長会 意見交換会「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」

日本経済新聞社編集委員の谷隆徳氏をコーディネーターに「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」をテーマにした4人のパネラーたちのディスカッションが行われた。議員のなり手不足の問題、議員に対するハラスメントの現状と対策などの問題提起があった。

また、投票率の低下とともに、選挙を通過しないで当選することは民主主義の機能不全である。選挙がないことは議会・議員の正当性に疑問符が付けられ、無投票で議員となった人からも、住民の審判を仰ぎたかったという意見もあった。

④既存事業の磨き上げと再整備による観光名所化の取り組み

①と同様、「第18回全国市議会議長会研究フォーラム in 北九州市」の視察企画として、高塔山での観光誘客の取組を視察した。標高124メートルの高等山山頂展望台から眺望は素晴らしく、東に若戸大橋、北に響灘を望め、特に「河童の隠した宝石箱」とキャッチコピーが付けられた夜景は日本三大夜景の一つや、日本夜景遺産にも認定されている。また、我々が登頂したタイミングに合わせたサプライズとして花火を打ち上げるなど、漫然と観光名所を抱えるのではなく、時機を逸せず魅力を伝えるための運営が行われていた。

⑤全国市議会議長会 課題討議「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」

議員のなり手不足は、住民自治の劣化を招く。この問題に立ち向かうため、③の意見交換会に引き続いた課題討議を行った。江藤俊昭氏をコーディネーターに、「議員のなり手不足問題への取組報告」が3人の議員からあり、「なり手を育てる地方議会未来への種まき研究会～地方議員講座養成講座～」 「若手女性議員のネット ワーク&ママの議員インターン」といった事例報告があった。

⑥「門司港レトロ」を活かした観光誘客への取り組み

①、④と同様の、「第18回全国市議会議長会研究フォーラム in 北九州市」の視察企画として参加し、観光誘客の取組を視察した。

1889年に開港した、九州最北端に位置する国際貿易港・門司港。交通の要衝として栄え、周辺には海運会社や商社などの西洋建築物が次々と建てられている。当時の佇まいを修復、復元したのが「門司港レトロ地区」でシンボリック存在の「門司港駅」をはじめ、アインシュタインが宿泊した迎賓館「旧門司三井倶楽部」などを保存公開している。また、昭和6年に建造され、平成26年にリニューアルオープンした三宜楼は、現存する木造3階建ての料亭の建屋としては九州最大の規模で、館内には三宜楼と門司港の歴史が分かる展示スペースがあり、出光佐三や高浜虚子など料亭を利用した人物なども紹介されている。門司電気通信レトロ館は大正13年に「逓信省門司郵便局電話課庁舎」として建てられた建物は、放物線アーチと垂直線を基調としており、洗練された大正モダンを今に伝えている。館内では、電話機の移り変わりや自動交換機など、明治から平成に至る電信電話の貴重な史料を見ることができた。

5. 研修成果

②の基調講演では、片山善博氏からの鳥取県知事時代の経験を踏まえて、地方議会のあり方について、様々な指摘がされ、議会の権限の積極的な活用や、市長提案の議案や予算案の審査における修正などはない状況ではないか。また、市側と議会との関係についても修正や否決といった緊張感がないのではないかと指摘されました。現在は市財政状況が良好でも将来的に財政が厳しくなった場合に備えた取組も必要であり、いずれにしても、議会はいつも緊張感が大切あること、そこを意識した議会運営に努めていきたいと思った。

③のパネルディスカッションでは、特に濱田真理氏「Stand by Women 代表女性議員のハラスメント相談センター共同代表」から、地方議員に対するハラスメントの現状の説明と今、具体的に相談を受けている議員のハラスメントについての内容について発言があった。本市についても議論していく時期に来ているように感じた

⑤の課題討論では、議員のなり手不足の打開策を探るには、まずもってその要因を探ることが必要である。議会・議員に直接かかわる要因とともに、その結果であり原因となっている日本の政治構造の変化を読み解くことも重要である。つまり、議員のなり手不足は、議会・議員に直接かかわる要因によるが、それは日本の政治構造の変化と密接に関連している。したがって、総合的な要因分析が必要になってくるように思う。

また、①・⑥の観光誘客や④の観光名所化の取組は、いずれも既存資源に付加価値を見出し、新たな魅力を創造したものである。特に④の高塔山の視察では、我々が登頂したタイミングに合わせたサプライズとして、小倉市長の計らいによる花火が打ち上がり、若戸大橋のライトアップと調和した素晴らしい夜景が心に残る体験となった。柔軟かつ大胆な取組と、訪れた方への心遣いの組合せで成果を導いた手法の数々は、まさに今、NHKの連続テレビ小説「ブギウギ」によって新たな価値が付加されている本市の観光施策を考える上で、大いに参考となるものであった。